

今日はテスト前日

校長 武井 正明

結構好きでした。のんきなテスト前日。

嫌～な先輩がいる部活には行かなくていいし、テストはまだやっていないから、母親に「今回はいい点取りそうな予感がする…」と思わせぶりの風呂敷を広げてみたり。

そして前日のテスト勉強の計画表は全科目「総仕上げ」なんて書いてある。聞こえはいいが、その実は「ただザっと見るだけ」パラパラ捲って時間が過ぎれば、今日の勉強は、おしまいっ。

しかしそれは、しっかり準備していれば、の話。

やっていなければ、「もうお仕上げ」ということになる。

ただ、こっちだってただ黙ってテストを迎えてはいない。それなりの対策は考えている。

睡眠学習は不発に終わり、あげく高校受験で落ちた。そしてこれは高校時代。

S本先生という社会の先生がいた。この先生が照れ屋で実直。嘘のつけない人だった。私はS本先生が大好きだった。しかし、そのS本先生の優しさにつけ込むのである。

直前になると、大体テスト範囲を終わっているの、質問の時間になったりする。

そこがねらい目だ。

「先生、ここ出ますか？」「う～ん…」なかなか煮え切らないその反応に、すかさず「そっか、出ないか」と呟き、なんと教科書に大きく4Bの鉛筆で×印をつけるのである。

すると慌てたS本先生は「ああっ、出る出る出るっ!!」とブルブル顔を震わせながら、思わず反応してしまうのだ。

そうなるこっちのもの。

「じゃ、これは出ますか？」「…出ない」「これは?…」「… (小さな声で) 出る」

誘導尋問していくうちに、出るところがかなり絞り込まれていく。これでなかなかの知能犯だったのだ。褒められたものではない、姑息で卑怯な手段である。まあ本当にひねくれ者の、教師からしたら、イヤ～な生徒だった。×のところは全くやらなかった。おかげで、S本先生の社会だけは、効率よく満足な点数が取れた。

数学のY田先生。いつも髪型をピシッと決めた、親しみやすい若手男性教師だった。

この先生も見るからに、いい人。ただ、この先生にはS本先生のような手は通用しなかった。こちらのねらいを何となく、ニオイで察知する先生だった。

だから、出るか出ないか質問すると、「そんなのワカンナイっ!!」と言った後、ものすごい早口で難しい数学の解法を説明しだすのだ。唇の部分だけが空いたり閉じたり。説明内容よりも、その口許の動きが面白くて、似顔絵を描いて友達に回したりしていた。きっとこの人のアタマン中は数字や記号だらけなんだろう、なんて思ったものだ。そんな調子だから、数学はどんどんわからなくなっていく。

だから、やっぱり地道に勉強しましょう。近道などないのです。